お客様との関わり

**付加価値の高いものづくりに取り組み、
お客様に安心と安全を提供する企業であり続けます**

品質方針

私たちは確かなものづくりにより顧客・社会からの信頼に応えます。

1. 顧客・社会からの要求を的確に把握して、迅速に対応します
2. コンプライアンスを徹底し、法律や倫理に対し誠実に対応します
3. 人材を育み、業務の継続的改善に努め、確かな技術を製品に活かします

品質マネジメントシステム

当社は、ISO9001に基づく品質マネジメントシステムを構築し、全店管理責任者による全社的なマネジメントの統括のもと、本支店の各部門および各部署において土木構造物・建築構造物および舗装材料の製造における品質の確保と継続的なシステムの改善によって顧客満足の向上に取り組みます。

本支店の各部門および各部署では中期経営計画の策定において、現場では工事着手前に実施する施工検討会において、顧客要求事項への適合および顧客満足の向上を目的に品質目標を決定し、定期的に確認・分析・評価することでマネジメントシステムの有効性を検証しています。

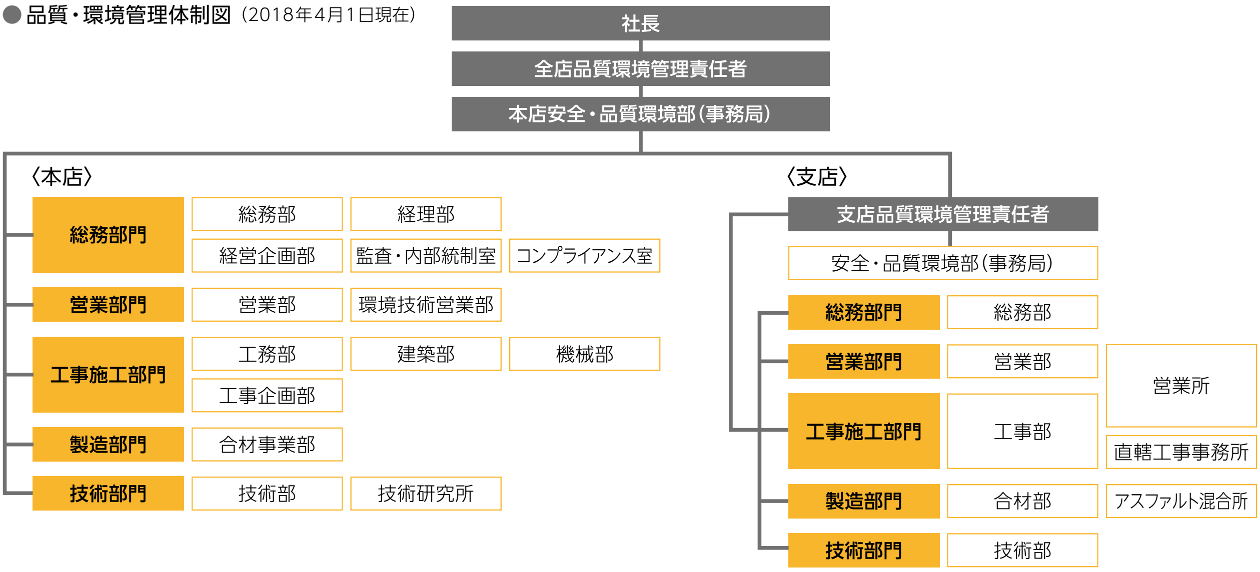
施工技術発表会

社会基盤を支える企業として、新たな価値をつくり出すためには、顧客ニーズの変化を的確にとらえた技術革新が不可欠と認識し、技術開発に重点を置いています。

毎年実施している施工技術発表会では、現場における技術的なニーズに鑑み、全支店の従業員による新技術採用や特殊な施工事例などに関する発表を通じて、全社の技術力の向上を図っています。2017年度は、「継承と確信～大林道路版カイゼン～」をテーマに、現場で実践した技術の活用方法やさまざまな創意工夫、新技術の発表がありました。その様子を全国各地の営業所に向けて映像配信し、現場で作業する多くの従業員の意識改革と日々発生する問題点を解決するためのたゆまぬ「カイゼン」をうながしました。

社長による開会挨拶

● **品質・環境管理体制図**（2018年4月1日現在）



施工・製品実績

◉ ICTの活用

建設業就業者数の減少・働き方改革に伴い、生産性向上は喫緊の課題です。当社もその解決策の一つとしてICTの活用を推進しています。ICTの活用は、現場作業の自動化・簡素化により現場に配置すべき人員を削減しつつ、安全と品質確保を可能にします。

国土交通省関東地方整備局発注のICT舗装工事第一弾案件である東京外かく環状道路 道路休憩施設舗装他工事（千葉県市川市）では、UAV※1・地上型レーザースキャナーを利用した3次元起工測量から3次元設計データの作成、ブルドーザーなどで舗装を行う際の高さ（敷均し高さ）を自動制御した施工、地上型レーザースキャナーによる出来形検測および3次元データの納品までの全プロセスにおいてICTを活用しました。2018年1月には、現地で千葉県i-Construction推進連絡会※2、一般社団法人 日本道路建設業協会主催のICT舗装工視察会がそれぞれ開催され、参加者はICT舗装工のプロセスや舗装への適用に関するメリットと課題について理解を深めました。

また、当社は現在、東京大学と共同研究によって建設業界全体で活用できる新たな安全管理モデルのシステム開発に取り組んでおり、研究成果は社会に還元し、業界の発展に寄与していきます。

一般社団法人 日本道路建設業協会会員企業を対象とした公開施工の様子

※1 UAV：Unmanned Aerial Vehicleの略。ドローン・無人航空機。
※2 千葉県 i-Construction推進連絡会：i-Constructionは、国土交通省が進める「ICTの全面的な活用（ICT土工）」等の施策を建設現場で導入することで、建設生産システム全体の生産性向上を図り、魅力ある建設現場を目指す取り組み。千葉県i-Construction推進連絡会は、発注者と受注者が情報・意見交換を行い、千葉県内での円滑な普及を図ることを目的として2016年に発足。

◉ 全天候型高耐久常温アスファルト合材「楽ファルト」

高度経済成長期に集中的に整備された日本における社会資本は老朽化が社会課題となっており、道路も例外ではありません。さらに災害が頻発している昨今の状況を背景とした道路の維持修繕工事の増加を見据え、全天候型高耐久常温アスファルト合材「楽ファルト」を開発し、販売を開始しました。

楽ファルトは水と反応して硬化するため、降雨時の施工も可能で、道路表面の穴（ポットホール）に水が溜まっていても、取り除かずにそのまま埋めることができます。

また、従来の常温アスファルト合材より強度発現が早く、耐久性も高いことから、施工後、直ちに交通開放することが可能となるとともに、安全性に大きく寄与することができます。

「楽ファルト」の施工方法

ステークホルダー別報告
お客様との関わり